

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105149
法人名	有限会社 パッション
事業所名	グループホーム かすが
所在地	鹿児島県鹿児島市春日町8番25号 (電話) 099-248-1058
自己評価作成日	令和5年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念「あなたの歩んできたこれまでの道のりを尊重し、あなたの出来ることを大切にありのままのあなたと共に歩いていきます」この理念を朝礼の三唱と共に毎朝の朝礼、申し送りや毎月の勉強会でケアの振り返りとして共通解釈し、またご入居者がご入居者らしく居られる様、ご家族とのご面談やご相談には職員担当を中心に取り組み、理解、共有していくことで当ホームにおけるケアの考え方や方向性、職員一人、一人が一つの目標を持って支援に進んでいけるものと考えてますが、コロナ化にて定期的な開催や面会も停止されており電話等にて対応させて頂いています。これまでも地域との交流を手探りでありましたが大切に運営してきましたが、コロナ感染症が2019年よりおさまらず他機関との連携を図りながらですが、地域の皆様にこれからも還元できるホーム作りを目指していきたいと思っています。グループホームの方針 パーソンドケアは毎日の業務に振り返りを持ってグループホームならではのご入居者様のご自分らしくいられる環境作りを念頭にサポートしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は系列医療機関や系列グループホームが19事業所あり、運営方針の中に「他機関との連携を図る」とあり、互いに協力体制がありサービスの質の向上につながっている。
- ・各ユニットのリーダーや管理者が中心になり、全職員が利用者の笑顔を見れる支援を話し合い、個人面談の中でもより良い方向性を検討している。
- ・資格取得や研修参加の支援があり、職員は仕事に対する目標やホームの展望についてしっかりそれぞれが意思をもって向上心にあふれている。
- ・系列医療機関との緊急時の24時間医療連携体制を構築し、必要な医療が受けられる。
- ・コロナ禍の中で自粛しなければならないことも多いが、できる限りの努力をし、家族との関係性を継続し、体調を見ながら受診の帰りに紫陽花やコスモス等の花見や楽しみを作っている。食事も手づくりケーキや利用者が枝豆を茹でてビールを楽しむこともある。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域において、本人らしく生きて頂く事を理念に掲げ、毎朝の申し送りにて唱和を行い、職員会議等にて適宜振り返りを行い共有を深めている。	理念は各ユニット毎の受付と事務室に掲示し、パンフレットにも掲載している。朝礼で唱和し職員会議で話し合いをしている。年間スケジュールで理念について研修を行い、振り返り確認し、理念を共有して、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており町内清掃活動や消防団による避難訓練に積極的に参加してる。	町内会に加入し、例年清掃活動・避難訓練や総会にも参加している。コロナ禍で地域行事は自粛中である。回覧板で地域情報を得ている。地域からサツマイモや桜島大根等の差し入れがある。コロナ対策解除になりボランティアの受け入れを開始した。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ボランティア入門講座の講師依頼・医療センター講師を受け、高齢者や認知症の方への支援方法についての講義を行っている。また地域の方からの入居相談等においても支援方法等の相談を受けて助言等を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族・町内会・地域の方達も参加を頂き取り組みや現状を報告し話し合いを行い、同時に意見や助言等頂きながらサービス向上に活かしている。コロナ対策にて今年度は紙媒体でのご報告。</p>	<p>運営推進会議はコロナ禍で書面会議を定期的開催し、議事録を委員や行政に送付し、ホームの活動状況や現状報告を行い、助言や意見・情報をもらい記録し、運営に反映している。今はコロナに関する意見が多い。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>要介護認定申請の時等、市役所へ出向く時には、相談や情報収集等を行ない、協力関係を築ける様取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは電話や窓口に出向き、現状報告や相談・情報収集をして、指導を受けたり感染症予防の件で連携を図っている。介護相談員も受け入れ協力関係ができています。市主催のリモート研修に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について、職員会議において勉強会や話し合いを行い、職員トイレに、「禁止の対象となる具体的な行為」や「身体拘束がもたらす弊害」「拘束が拘束を生む悪循環」等の文書を掲示する等、常に意識するように心がけケアに取り組んでいる。</p>	<p>指針があり、マニュアルに沿って勉強会を実施している。身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、入退去者があるので、毎月1回委員会を開催している。新任研修も行い、職員は正しく理解している。玄関の施錠を含め、言葉の拘束や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出希望者には職員が同行し、自由な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても、上記と同じく、職員会議において勉強会や話し合いを行い、施設職員の目が届く箇所に文書を掲示し、常に意識するよう心がけケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修（コロナ化にてリモート）に参加し、内部勉強会を行い、各職員が権利擁護について学ぶ機会を持つ事が出来る様に務めている。職員会議等にて、ホームでの事例を通じた話し合い等にて共通理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時や改定の際は、書面をもって十分説明し、理解・納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話連絡等にて意見・要望等を聞くことが出来る様、日頃より関係作りに努め、また直接は言い難い意見・要望も頂けるよう、意見箱の設置を行っていたがコロナ化にて入室禁止の為、現在は設置箱利用なし。	利用者からは日々の会話の中で、家族からは窓越・庭越面会時に日々の状況を報告し意見を聞いている。毎月電話でも聞く機会を設けている。毎月、便りで写真や行事予定、担当者から現状報告を添付し郵送している。意見や要望は運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議にて意見・提案が頂ける様に心掛けている。また管理者会議にて代表と話す機会が設けられている。</p>	<p>毎日朝礼で職員の意見や提案を聞いている。全体会議は自粛、各ユニットの職員会議で意見を共有し、運営に反映している。管理者も個別面談で対応する等、希望や要望に対応し働きやすい環境作りを心掛けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者から代表へ報告・相談が出来る体制が出来ており、管理者会議等にて問題提議も出来る。また本部の管理課や人事の職員への相談やアドバイス等も頂いている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修やグループ内研修の案内を行ない、適宜参加を募っている。また各職員の経験や力量に応じて適切な研修への参加も促している。グループホーム内においても定期的に内部研修を実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修等にて積極的に交流を行ないネットワークづくりを心掛け、自ホームのサービスの質の向上に繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーのアセスメントにより、不安なこと、要望等を傾聴・共感・受容しながら聴取し、ケアに繋げていけるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に家族との信頼関係の構築にも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では、まず入居者や家族の要望や意見を中心に支援を行なっている。医療は、今までのかかりつけ医を優先し、また他のサービスについても在宅から引き続き継続して利用できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る家事等は入居者で行なって頂き、職員は入居者と共に生活を過ごしながら、その暮らしを支える支援者としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は共に入居者本人の生活・人生を支える支援者として協力し合える関係づくりに努め、家族と入居者との関係性や心の距離感等を把握し勘案した上で、ケアプランに位置づけて支援にも参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生きてこられた環境を出来る限り変えないように努めており、入居する事によってこれまでの関係が途切れないように努めている。	コロナ禍の為、窓越しや庭越し面会、家族からの電話や手紙・贈り物・受診帰りのドライブで桜や紫陽花・コスモスを見物したり、家族と墓参りや買い物をしている。訪問理美容師に来てもらっている。フェイスシートを活用して個々に合った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、一人が孤立することの無いように、また良い関係を築くことができる様にフォロー等を行ない、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの信頼関係とケアマネージメントの継続性から、退居後も家族からの相談があり、それに応じている。ただし、引き継いで頂いた支援者との信頼関係づくりに配慮しながら気を付けて行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント時に、希望や意向を確認している。また今までの本人の生き方を、本人及び家族に聴き、ケアカンファレンスにおいて共有し「本人らしい生き方」について検討している。	思いや意向は、食事の手伝いの時や入浴時に聞くことが多い。利用者同士の話をしているのを聞き、記録し職員で共有し、家族にも伝えている。困難な場合は表情・動作から意向を把握し、家族と話し合い、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生きてきた人生の延長線上に当ホーム入所があり、本人らしい暮らしが継続できるよう生活歴や今までの暮らし方等の情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や心身状態、出来る事等を日々ケース記録に記録している。またケアプランのモニタリング評価時やサービス担当者会議時等で、職員間や家族と共有する機会がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリング評価時において、出された職員の意見をもとに計画書作成や修正・追加等を行い、サービス担当者会議において、その計画書の原案を確認し、話し合いにて修正・追加等行なうようにしている。	本人や家族の意見や要望を聞き、主治医の意見を盛り込み、カンファレンスでの職員の意見やケース記録を参考に介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月、その後1ヶ月で見直し、状況変化時はその都度見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等をケース記録に記録し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しや支援方法の実践や工夫に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況を把握、勘案し、その時々ニーズに応じて、インフォーマルな支援もケアプランに組み込む等、柔軟に対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、入居者が本人らしく、地域や社会との交流や貢献等も出来る様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医療機関の選択については、本人・家族の意向を優先し、かかりつけ医との連携に努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医である。系列医療機関の受診は月1回、職員が同行している。訪問歯科も定期的に受けている。他科受診は基本は家族同行である。系列医療機関と24時間ホットライン体制で指示を受け対応し緊急時医療体制があり、適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は常駐してはいないが、現在定期的に訪問看護師を利用されている入居者様はいる。相談し、医療・看護面からのアドバイスは頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、情報提供を行い、またカンファレンス等に参加し、相談員、看護師等の病院関係者との情報交換や相談に努めている。また適宜、相談や情報交換を行い、勉強会等を通じて関係づくりにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前相談の時点から家族へ事業所の実力や機能、また出来る事を説明し、入居後は家族・職員と話し合いを行ないながら方向性を共有していくように取り組んでいる。	「重度化や終末期に向けた方針」の指針があり、契約時に延命処置の有無を含め説明し同意書をもっている。状態変化に伴い本人・家族に医師から説明し、意向を確認しながら支援している。安心して最後が迎えられるよう看取り体制もできている。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置し、事業所内にて勉強会を行い、実践力が身につけられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回火災避難訓練・土砂災害訓練を行っている。町内会にも加入しており、町内会長を通じて、近隣住民からの協力が頂ける体制・関係づくりも出来ている。</p>	<p>年2回共、消防署立ち合いで昼夜間想定避難訓練を実施している。通報・避難・消火訓練を行い入居者参加で実施し指導を受けている。町内会長の声掛けによる近隣住民の協力体制もある。業者による設備点検も行っている。防火管理者を中心に自主訓練も年2回し、洪水・地震も想定して避難訓練を実施している。備蓄は水・米・レトルト食品・インスタントラーメン・缶詰・飴玉等を用意し、カセットコンロ・ボンベ・防災頭巾も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	年1回、接遇等の研修会を実施している。排泄時や入浴時の羞恥心や声の大きさに配慮し、入室時は職員名を伝えて声掛けしている。筆談やジェスチャーの時もある。呼称は苗字にさん付け、申し送りはイニシャルで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症により意思疎通の困難な方であっても、出来る限り、希望を表したり、自己決定が出来る様に、一人ひとりに合った働きかけ方を考えてアプローチをするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合に本人の生活を当てはめる事無く、本人らしい生活ペースで過ごせる様、今までの暮らし方を聞き、また今現在での暮らし方に対する希望も確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の意向や好みを、入居者・家族に確認し、その人らしい姿で居られるよう心掛けている。散髪の際は好みの髪型をお聞きしてカットして頂く。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、家事支援として、職員同行での野菜の皮むき、根切り等の調理の下準備をして頂いている。食後のお盆拭き、机上拭き等もその方の体調に合わせてお手伝い頂く。	旬の食材を使用し利用者から要望を聞きながら献立を作成し調理している。歯科医の協力で嚥下機能を診断し、食形態は普通食や刻み食等で、水分はとろみで提供する場合もある。行事食のおせち、誕生日やクリスマスの手作りケーキ、寿司を注文したり、七夕の夕食会等で楽しんでいる。切り干し大根作りや枝豆・つわぶきの皮むき・台拭き等を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量をチェックし、また専門医による診断を取り入れた上で、本人の咀嚼や嚥下に応じて、食べる量が確保出来るように支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	アセスメントから、能力に応じて、1人ひとりに合った声掛けや口腔ケアを行なっている。必要な方においては歯科衛生士による専門的口腔ケアや口腔内の状況観察を定期で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンや動作等を把握した上で、本人の身体状態に応じ、可能な限りトイレでの排泄が出来る様に心掛けている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、個々に声掛け誘導を行い、基本はトイレでの排泄である。市からおむつ現物支給があり、排泄用品は各居室で管理し、排泄状況に応じ使い分けている。便秘傾向の場合、薩摩芋が効果があり排泄が見られる。おむつからリハビリパンツに改善した事例がある	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事に心掛け、水分摂取や運動を促している。日中のお茶給水では嗜好にあわせた飲み物の提供で水分量の確保。また、かかりつけ医と連携し、緩下剤の調整も行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者様のペースで入浴を楽しんで頂いている。また体調に応じては中止や変更等の対応をとっています。入浴時は四季折々の入浴剤を使い季節を感じてもらう。	週2回、午前中の中の入浴を基本に希望や排泄状況に応じて順番等変更している。全員浴槽に入るがシャワーと足浴の支援もある。入浴剤やゆず湯・しょうぶ湯でも楽しんでいる。拒否の場合は日時や職員交代を行う等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に起きて頂いたり、休んで頂く事は無く、本人のその時々意向を確認しながら休んで頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬剤師の指導のもと、服薬の支援を行なっている。症状の変化の確認に努め、必要時には、主治医及び薬剤師へ報告を行い対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴の調査を行ない、その人らしいホーム生活の中での本人の役割や楽しみごとが見つけれられるように心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームの行事での外出やドライブ以外では、毎日の散歩やドライブ、買い物が現在はコロナ感染症対策で自粛である。個別な希望があれば状況に応じて行いが現在は自粛して頂いてます。	コロナ禍で外出は自粛中であるが状況を見ながら、車いすですホーム周辺の散歩や定期的な受診の帰宅中、紫陽花やコスモス見物をしている。近隣の神社に花見にいたり、家族の協力で墓参りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持してもらってはいないが、本人や家族の承諾を頂いた上で、その範囲内において本人の希望に応じ使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望に応じ、ホームの電話を使用する事ができる。また希望がある方は携帯電話を所持されており通信支援を行っている。手紙については年賀状の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の輝度や色合いや壁等の配色や壁画等の飾りつけについて、不快に思う事が無いよう配慮し、担当の計画・作成による壁画にて、季節感を出すように工夫している。また食事を行うテーブルについては、特殊な形状なものは使用せず、自然で使い慣れたものを使用している。	玄関に花を飾り、リビングに空気清浄機を設置しカーテンやエアコンで快適な室内環境を整えている。廊下の電気の明るさも状況により変え、壁にパッチワークやこいのぼり等の貼り絵を作成し展示している。畳スペースがあり、テレビやソファを置き、個々人の気に入りの場所で居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥に畳コーナーがあり、時折、一人でゆっくりとされたり、集われて談話等をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを使用し、頂く事のメリットを説明し、リスクを勘案した上で可能な限り本人の馴染みのあるものを、自室内へ置いて頂けるよう家族へ協力をお願いしている。	居室は電動ベッド・エアコン・防災カーテンを設置し、寝具類はレンタルや個人での持ち込みがある。箆笥・仏壇・遺影・写真・ぬいぐるみ・ハンガー掛け・自分の作品等、本人と家族で話し合い、好みのものや使い慣れたものが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の見当識障害が有る方に対して、トイレや自室の場所等、分かりやすく表示や目印をつけている。洗面台やテーブルの高さは車椅子の高さに合わせており、出来る方では介助無しで生活動作を行なっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない